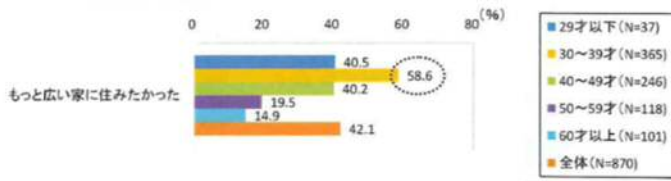


30歳代の住宅購入決定理由は「もっと広い家に住みたかった」が約6割



一般社団法人不動産流通経営協会はこのほど、首都圏1都3県の不動産流通業に関する消費者動向調査の結果を発表した。それによると、住宅購入を決めた動機を意識面からみた場合、30歳代は「もっと広い家に住みたかった」が58.6%と最も高くなることがわかった。

29歳以下では「資産として家をもちたかった」が54.1%と最も高く、60歳以上では「住まい方に合わせて大きすぎない家に住みたかった」が31.7%とほかの年代に比べ18ポイント以上高くなっている。

身近事情から住宅購入理由をみると、30歳代は50.1%が「子どもの誕生や成長で住まいが手狭になった」ことをあげた。29歳以下は「結婚を機に家を持ちたかった」(43.2%)、60歳以上は「子どもの独立などで家族が減った」(17.8%)など、ライフイベントを購入理由にあげる割合が高い。

住宅の質の面では、年齢に関係なく間取りや住宅の広さを購入理由にあげる割合が高いが、年齢が上がるほど「新耐震基準を満たした住宅だった」が高くなる傾向がみられた。

情報提供: 新建ハウジング

20代夫は「夫婦円満のため」の住宅投資に積極的

スパークス・アセット・マネジメントは11月9日、夫婦の金銭事情や投資に対する意識を明らかにするため、全国の20歳以上の既婚男女を対象に実施した「夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査2018」の結果を発表した。それによると、20代の夫の約2割が「夫婦が円満にいるために、お金をかけたいこと」に「住宅(リフォーム含む)」と回答。全年代でみると「住宅」と答えたのは9%で、ほかの年代よりも高いことがわかる。

夫婦の預貯金の残高は、「100万円未満」が19.2%、「100万円～300万円未満」が22.0%、「1000万円以上」が21.5%となり、平均額は667万円だった。現在の貯金額に「満足している」人は12.1%、「満足していない」人は62.9%にのぼった。また、老後の備えについて「満足している」人は7%にとどまっていることがわかった。

「へそくり」をしているかを聞いたところ、夫の39%、妻の44%が「している」と回答。へそくり額の平均は、夫が102万円、妻は2倍以上の211万円だった。



情報提供: 新建ハウジング

第14回「トイレ川柳」の入選作品決定



TOTOは11月14日、7月から9月まで募集していた第14回「トイレ川柳」の入選作品を発表した。応募総数2万835句の中から、最優秀賞をはじめ計40作品を選出した。

最優秀賞には「百点の テストを我が子トイレ置き(かきくけ子さん)が選ばれた。また、今年度のテーマ“未来のトイレ”にふさわしい作品に贈られる未来のトイレ賞には「近未来トイレは自ら考える」(えぬえ

つくすさん)が選ばれた。選考はコピーライター・仲畑貴志氏。



情報提供: TOTO